

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さん、こんにちわ。今日は**正御影** 供(しょうみえく)。弘法大師空海の御 命日です。

覚王山周辺の寺社仏閣、名刹を紹介 してきます今年のかわら版。今月号は **大龍寺(だいりゅうじ)**です。

*文中()内の数字は参照号

★本所五百羅漢寺の「写し」

大龍寺は姫ヶ池通の東側、**仏舍利**を 納めた**奉安塔**の奥にあります。

尾張徳川藩・三代藩主綱誠の命を受 けて**喝伝和尚**が出来町(東区)に創建 (一七二五年)しました。

その後、**指月和尚**が当時江戸で大人 気の**五百羅漢寺**の「写し」として**羅漢 堂**を造営(一七七八年)。堂内に安置 される**五百羅漢**は、名古屋城築城時の 犠牲者を供養するために作られ、一七 八〇年に開眼しました。

本尊の**釈迦牟尼像**は**建中寺の聞誉 上人**が寄進(一七八二年)。

一九二七年に覚王山に移築。今日の 姿になりました。



★第一結集の五百羅漢

さて、**羅漢**とは**お釈迦様のお弟子さ ん**たちの呼称。最初の十六人の弟子を **十六羅漢**(第五十三号)、**お釈迦様入 滅後**にその教えを整理するための会 合**第一結集(だいいちけつじゅう)**に 集まった五百人のお弟子さんを**五百 羅漢**と呼びます。(注)

江戸時代には**五百羅漢参拝**が大流 行。その中心が**本所の天恩山五百羅漢 寺**。その後は**目黒**に移転しましたが、 **網吉、吉宗**など、歴代將軍の庇護を受 けてたいへん繁栄しました。その賑わ いに触発されて**指月和尚**が「写し」を 造営。当時の様子が**尾張名所図会**に描 かれていきます。大変立派なつくりです ね。



尾張名所図会の大龍寺

江戸時代には四国霊場参拝も大人気。ここ覚王山にもご存知のように**十八箇所霊場の「写し」**があります。大龍寺の羅漢堂も「写し」とは知りませんでした。

★明(中国)風の独特の風情

大龍寺は東海地方には珍しい**黄檗(おうぼく)宗**。明(みん)中国の高僧、**黄檗山萬福寺(福建省)の隠元(いんげん)**が来日(一六五四年)。將軍・家綱公の庇護を受け、京都・**黄檗山萬福寺**ができました(一六六一年)。大龍寺も万福寺の末寺です。

坐禅によって悟りを得て仏になること(見性成仏)を目指すのが**禅宗**。日本には**禅宗五家**のうち**臨済宗・曹洞宗・黄檗宗**の三宗があります。当初は**臨済正宗黄檗派**と称し、一八七六年、独立して黄檗宗になりました。

黄檗宗は**明(中国)風**の誦経や鳴り物を使う儀礼が特徴的。**黄檗の梵唄(ぼんぱい)**と呼ばれます。

造りも独特の趣き。城のような本堂、赤壁など明風の建築様式で、**赤寺、南京寺**と呼ばれるお寺もあります。

大龍寺本堂も、入母屋屋根に**鯨(じやう)ち**が乗り、**城櫓(じやうりよ)**を思わせる独特の風情。そのためか、覚王山への移築に一年半もかかったそうです。

弘法大師空海の真言宗のご本尊は**大日如来**。一方、黄檗宗のご本尊は特定されておらず、お寺ごとにそれぞれのご本尊があります。

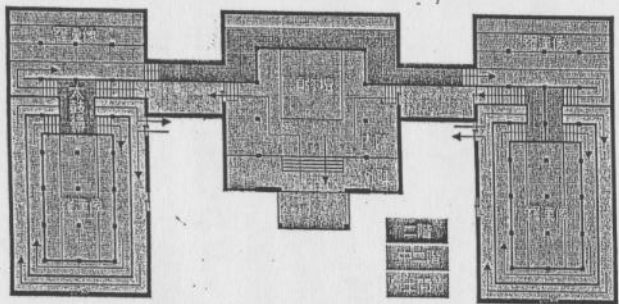


隠元

★迷宮のような羅漢堂

大龍寺の羅漢堂は、**本堂と左右羅漢堂**の三つで構成される複雑な構造。さながら迷宮のようです。五百羅漢を一度に見渡すのではなく、**回廊**を順路に沿って歩き、参拝者に羅漢の数の多さを実感してもらったためにこうした構造になっていると言われています。

羅漢堂



★来月は信長公

来月は覚王山縁(ゆかり)の戦国武将、**織田信長公**に関わりの深い**法華寺**をご紹介します。東区にある日蓮宗のお寺です。乞うご期待。

(注) 今月号は大龍寺の浅井重樹副寺(副住職)に見て頂きました。十六羅漢は十八羅漢、五百羅漢は五百四十六羅漢という説もあるそうです。勉強になりました。